

## Two remarks on Stability conjectures.

北大 理 三波 篤郎

### §. 1 Introduction.

ここでは, S. Smale の構造安定性予想及び  $\Omega$ -安定性予想に関連した 2 つの結果を述べる。

$M$  は  $n$  次元 closed smooth riemannian manifold,  $\text{Diff}^1(M)$  を  $M$  上の  $C^1$ -diffeomorphism 全体で,  $C^1$ -topology が与えられているものとする。

構造安定性予想 [4]  $f \in \text{Diff}^1(M)$  が構造安定  $\iff$   $f$  は Axiom A と Strong transversality condition をみたす。

$\Omega$ -安定性予想 [8]  $f \in \text{Diff}^1(M)$  が  $\Omega$ -安定  $\iff$   $f$  は Axiom A と No cycle property をみたす。

Remark. これらの予想は  $f$  が  $C^r$ -diffeo. ( $r \geq 2$ ) の場合でも、もちろん意味を持ち、実際、そのような形で予想されているが、ここでは  $C^1$ -stability, すなわち、 $C^1$ -perturbation に関する stability のみを考える。それは主に、 $C^2$ -closing lemma が未解決であるという理由による。

さて、次のような  $C^1$ -diffeo. のある class を考える。

$$F(M) = \text{int}_1 \{ f \in \text{Diff}^1(M) \mid f \text{ の周期点 は hyperbolic } \}.$$

ここで、 $\text{int}_1$  は、 $C^1$ -topology に関する interior を表わす。

Mañé は [3] において、次の事を予想している。

(1.1) Conjecture.  $f \in F(M) \implies \Omega(f)$  は hyperbolic set.

実は、この予想が正しいならば、構造安定性及び  $\Omega$ -安定性予想がともに成立する事がわかって来る [3]。

$f \in F(M)$  は、その周期点が全て hyperbolic であるから、

$0 \leq i \leq \dim M$  に対して、

$$\Lambda_i(f) = \text{closure} \{ p \in \text{Per}(f) \mid E_p^S(f) \text{ の次元} = i \}.$$

ときめる。ここで、 $E_p^S(f)$  は  $p$  の hyperbolicity に対応した、 $T_p M$  の stable sub space である。

この  $F(M)$  について、次の Mañé の結果が重要である。

(1.2) Theorem [2].  $f \in F(M)$  に対し、 $C > 0$  と  $0 < \lambda < 1$

が存在して、次の (i), (ii) をみたす。

(i)  $f$  の  $C^1$ -neighborhood  $\mathcal{U}$  が存在し、

$$\| Tg^{\pi(p)} | E_p^S(g) \| \leq C \lambda^{\pi(p)}$$

$$\| Tg^{-\pi(p)} | E_p^U(g) \| \leq C \lambda^{\pi(p)}$$

for all  $g \in \mathcal{U}$  and  $p \in \text{Per}(g)$ . ここで、 $\pi(p)$  は  $p$  の周期を表わす。また、 $E_p^S(g)$ ,  $E_p^U(g)$  は  $p$  の hyperbolicity に対応した  $T_p M$  のそれぞれ、stable, unstable sub space である。

(ii) それぞれの  $0 < i < \dim M$  に対して,  $Tf$ -invariant continuous splitting  $TM|_{\Lambda_i(f)} = E_i^s \oplus E_i^u$  が存在し,

$$\|Tf^n|_{E_{i,p}^s}\| \cdot \|Tf^{-n}|_{E_{i,f^n(p)}^u}\| \leq c\lambda^n,$$

for all  $n \in \mathbb{Z}_+$  and  $p \in \Lambda_i(f)$ . ここで,  $E_{i,p}^s$  は  $p$  上の fiber を表わす. さしに  $p \in \Lambda_i(f) \cap \text{Per}(f)$  とす.

$$E_{i,p}^s = E_p^s(f), \quad E_{i,p}^u = E_p^u(f) \quad \text{となる.}$$

(1.1) Conj. は  $\dim M = 2$  の時, 成立する [1], [6]. 従って, stability Conjectures. は, 2次元の時正し. さしに Liac は  $\dim M = 2$  の時, 次を証明して11る.

Theorem [1]  $f \in F(M) \iff f$  は  $\Omega$ -stable.

3次元以上では, (1.1) Conj. は未解決であり, (1.2) Theorem. 以外には, 自立した結果はないようである.

以下, §. 2 では  $\dim M = 3$  の場合に,  $f \in F(M)$  に対する,  $\Omega(f)$  の hyperbolicity にどこまでせまれるかについて考え. §. 3 では, stable な diffeomorphism の product と, stability conjectures との, ある興味深い関連について述べる.

## §. 2 3次元の場合.

このセクションでは,  $\dim M = 3$  とする.  $f \in F(M)$  に対しては,  $\Omega(f) = \overline{\text{Per}(f)}$  が成立するか [3],

$$\Omega(f) = \Lambda_0(f) \cup \Lambda_1(f) \cup \Lambda_2(f) \cup \Lambda_3(f)$$

となる。  $\Lambda_0(f)$ ,  $\Lambda_3(f)$  はそれぞれ, source, sink の全体であり, 有限集合であるので [5],  $\Lambda_1(f)$ ,  $\Lambda_2(f)$  が問題となる。しかし, 2次元の場合とは異なり, これらが hyperbolic set であるかどうかという以前に, “ $\Lambda_1(f) \cap \Lambda_2(f) = \emptyset$ ?” という問題が生じる。以下, このセクションでは

$\Lambda = \Lambda_1(f) \cap \Lambda_2(f) \neq \emptyset$  と仮定して,  $\Lambda$  について考える。(1.2) Theorem (ii) より,  $\text{TMI} \Lambda$  は 2通りの splitting  $E_1^s \oplus E_1^u$ ,  $E_2^s \oplus E_2^u$  を持つ。

(1.2) Theorem (ii) を使うと,  $E_1^s \subset E_2^s$ ,  $E_1^u \supset E_2^u$  がわかる。従って,  $E = E_2^s \cap E_1^u$  とすると,  $E$  は  $\text{TMI} \Lambda$  の 1次元 subbundle であり,

$$\text{TMI} \Lambda = E_1^s \oplus E \oplus E_2^u$$

という, Tf-invariant な 1次元 subbundle  $\Lambda$  の分解が得られる。これと, (1.2) Theorem (ii) を使うと, [1] と同様の方法によって, 次の結果が得られる。

Theorem.  $\exists d > 0$ ,  $0 < \mu < 1$  such that

$$\| \text{Tf}^n | E_{1,p}^s \| \leq d \cdot \mu^n$$

$$\| \text{Tf}^{-n} | E_{2,p}^u \| \leq d \cdot \mu^n$$

for all  $n \in \mathbb{Z}_+$ , and  $p \in \Lambda$ .

もし  $\Omega(f)$  が hyperbolic set になるなら,  $\Lambda = \emptyset$  でなければならず, Lorenz attractor などの存在を考えると,  $\Lambda \neq \emptyset$  という可能性もありそうである。その場合,  $\varepsilon$  以上の  $Tf$  のふるまいが,  $\Lambda$  の性質を規定する事になるのではないだろうか。

### §.3 Product of stable diffeomorphisms.

構造安定性及び  $\Omega$ -安定性に関して, 次の natural な問題が考えられる。

Question.  $f, g \in \text{Diff}^1(M)$  がともに構造安定 (resp.  $\Omega$ -安定) の時,  $f \times g: M \times M \rightarrow M \times M$  は構造安定 (resp.  $\Omega$ -安定) だろうか?

ここで,  $f \times g(x, y) = (f(x), g(y))$  である。

このセクションでは, この問題が実は, 構造安定性予想 (resp.  $\Omega$ -安定性予想) と同値になる事を示す。正確に述べると,

Theorem [7], 次の (a), (b), (c) は同値である。

- (a) 構造安定性予想 (resp.  $\Omega$ -安定性予想) は正しい。
- (b)  $f, g \in \text{Diff}^1(M)$  がともに構造安定 (resp.  $\Omega$ -安定) ならば,  $f \times g$  も構造安定 (resp.  $\Omega$ -安定) である。
- (c)  $f \in \text{Diff}^1(M)$  が構造安定 (resp.  $\Omega$ -安定) ならば  $f \times f^{-1} \in F(M \times M)$  。

証明. ここでは,  $\Omega$ -stability statement のみを示すが, 構造安定性の場合も同様である。

(a)  $\Rightarrow$  (b)  $f$  と  $g$  がともに  $\Omega$ -stable とすると, (a) より,  $f, g$  はともに, Axiom A と No cycle property をみたす。Axiom A と No cycle property に関する基本的な性質を使った, straightforward な議論によって,  $f \times g$  も Axiom A と No cycle property をみたすことがわかる。そうすると [8] より,  $f \times g$  は  $\Omega$ -stable である。

(b)  $\Rightarrow$  (c)  $f$  が  $\Omega$ -stable なら  $f^{-1}$  もそうである。故に (b) より  $f \times f^{-1}$  は  $\Omega$ -stable である。Kupka-Smale の定理より,  $f \times f^{-1} \in F(M \times M)$  がわかる。

(c)  $\Rightarrow$  (a) これが, Main part である。

$\Omega$ -stable な  $f \in \text{Diff}^1(M)$  に対して,  $\Omega(f)$  が hyperbolic set である事を言えば,  $\Omega$ -stability conjecture は成立する [3]。そのためには,  $0 < i < \dim M$  に対して

$\Lambda_i(f)$  が hyperbolic set になる事を示せばよい [2]。

以下,  $\Lambda_i(f)$  を fix し,  $\Lambda_i$  とかく。

(c) より  $f \times f^{-1} \in F(M \times M)$  であるから,  $0 \leq j \leq 2n$  に対して,  $\Lambda_j(f \times f^{-1})$  が定義でき, (1.2) Theorem (ii) より,  $0 < j < 2n$  に対して,  $T(f \times f^{-1})$ -invariant な continuous splitting

$$T(M \times M) | \Lambda_j(f \times f^{-1}) = \tilde{E}_j^s \oplus \tilde{E}_j^u$$

が存在し, (1.2) Theorem (ii) の norm に関する式が成立している。

次の事が, 簡単にわかる。

$$\begin{aligned} (3.1) \quad \Lambda_j(f \times f^{-1}) &= \bigcup_{k+l=j} \Lambda_k(f) \times \Lambda_l(f^{-1}) \\ &= \bigcup_{k+l=j} \Lambda_k(f) \times \Lambda_{n-l}(f) \end{aligned}$$

$$(3.2) \quad (p, q) \in \Lambda_k(f) \times \Lambda_{n-l}(f) \quad \text{のとき}$$

$$\tilde{E}_{j, (p, q)}^s = E_{k, p}^s \oplus E_{n-l, q}^u$$

$$\tilde{E}_{j, (p, q)}^u = E_{k, p}^u \oplus E_{n-l, q}^s$$

以上から, 特に

$$\Lambda_n(f \times f^{-1}) \supset \Lambda_i(f) \times \Lambda_i(f) \quad 0 \leq i \leq n.$$

が成立している。(1.2) Theorem (ii) より。

$$\| T(f \times f^{-1})^n | \tilde{E}_{n, (p, q)}^s \| \cdot \| T(f \times f^{-1})^{-n} | \tilde{E}_{n, (f \times f^{-1})^n(p, q)}^u \| \leq c \cdot \lambda^n$$

for all  $(p, q) \in \Lambda_i \times \Lambda_i$  and  $n \in \mathbb{Z}^+$ .

明らかに,

$$\| T(f \times f^{-1})^n | \tilde{E}_{n, (p, q)}^s \| \geq \| T f^n | E_{i, p}^s \|$$

$$\| T(f \times f^{-1})^{-n} | \tilde{E}_{n, (f \times f^{-1})^n(p, q)}^u \| \geq \| T f^n | E_{i, f^n(p)}^s \|.$$

特に  $q = f^n(p)$  とすると, 以上から,

$$\| T f^n | E_{i, p}^s \|^2 \leq c \lambda^n.$$

これより,

$$\| T f^n | E_{i, p}^s \| \leq \sqrt{c} \cdot (\sqrt{\lambda})^n$$

同様にして,

$$\| T f^{-n} | E_{i,p}^u \| \leq \sqrt{c} \cdot (\sqrt{\lambda})^n .$$

これは, 任意の  $n \in \mathbb{Z}_+$  と  $p \in \Lambda_i$  について成立してゐるから,  $\Lambda_i(f)$  は hyperbolic set である. q.e.d.

— References. —

- [1] S. D. Liao, On the stability conjecture, Chin. Ann. of Math. 1 (1980), 9-29.
- [2] R. Mañé, Expansive diffeomorphisms, Dynamical systems, Warwick. LNM. 468.
- [3] \_\_\_\_\_, Contributions to the stability conjecture, Topology 17 (1978), 383-396.
- [4] J. Palis, S. Smale, Structural stability theorems, Global Analysis, AMS. (1970).
- [5] V. A. Anisimov, A hypothesis due to Smale, Diff. Eq. 8 (1972), 203-214.
- [6] A. Sannami, The stability theorems for discrete dynamical systems on two-dimensional manifolds, (to appear in Proc. Japan Acad.)



- [7] A. Sannomi, On product of stable diffeomorphisms,  
(preprint)
- [8] S. Smale, The  $\Omega$ -stability theorem, Proc. Symp.  
Pure Math. (Global Analysis), XIV, AMS. (1970), 289-297.